

関東米粉食品メールマガジン

第191号 29. 2. 28 【毎月1回発行】

(18.7.20 創刊)

関東米粉食品メールマガジンは、**関東米粉食品普及推進協議会**が、会員の皆様から寄せられた様々な情報をもとに、米粉の利用拡大のために情報発信しています。



◆目次

- 〈1〉 米粉取組事例の紹介
- 〈2〉 米粉イベント&募集のお知らせ
- 〈3〉 都県事務局からのお知らせ
- 〈4〉 その他のお知らせ



< 1 > 米粉取組事例の紹介

◇埼玉県農商工連携フェアで米粉製品をPR（埼玉県）

のりす株式会社（埼玉県米粉利用食品推進連絡会会員）は、2月8日（水）に、さいたまスーパーアリーナ（さいたま市）で開催された「埼玉県農商工連携フェア（同時開催：農と食の展示・商談会）」に出展し、新しいお米の消費形態として注目されている「米ゲル」の展示と米ゲルを使ったクッキーの試食を行いました。

試食品は、**のりす**と共同で商品開発を行っている**パティスリー ハヤノ**（埼玉県米粉利用食品推進連絡会会員）が米粉と米ゲルで作った試作の焼き菓子2種類を提案、乳製品も不使用となっていて、試食した方からは、「小麦粉で作った商品と、味も食感も遜色が無い。」といった感想を聞くことが出来ました。

また、展示した米ゲルは、水分量を変えて作った「かため」、「やわらかめ」、「ゆるめ」の3種類。見慣れない食材に来場者も興味津々で、**のりす**の担当者からは、「現在、地元食品事業者と商品開発を進めているが、今後は、米ゲルに関心がある事業者へ積極的に米ゲルを提供していきたい。」と、普及に向けた意気込みが語られました。

さらに、同会場では、協議会会員の**井上スパイス工業株式会社**と**松本精麦米穀株式会社**が、米粉製品の展示を行って来場者の関心を集めるなど、今後、米粉と米ゲルの普及に期待が持てました。



のりすのブース



米ゲル(下)

試食品(上)



◇「とちぎ食と農の展示・商談会2017」に参加（栃木県）

栃木県米粉食品普及推進協議会と協議会会員の株式会社波里及び日の本穀粉株式会社は、2月8日（水）、宇都宮市のマロニエプラザ（栃木県立宇都宮産業展示館）で開催された「とちぎ食と農の展示・商談会2017」に出展し、米粉製品のPRを行いました。

この展示・商談会は、株式会社足利銀行主催による「とちぎ食と農の展示・商談会」と、とちぎ農産物マーケティング協会主催による「第10回栃木県産農産物等展示説明会」を合同開催したもので、県内外より125社の企業・団体が参加、食品バイヤーなどの関係者約1,800名が来場しました。

栃木県米粉食品普及推進協議会では、2種類の米粉食品（シフォンケーキ、スノーボール）の試食、協議会が作成した「米粉料理レシピ集」の無償配布と米粉に関するパネル展示を行いました。試食した方からは、「しっとり、ふわふわとした食感で美味しい。」「小麦とは違った風味がある。」などの感想が聞かれたほか、パネルを見た方からは、「米粉が自給率の向上につながることを知りました。」などの感想が聞かれ、米粉に対する理解を深めることができました。

また、株式会社波里では、チアシード入り米粉クッキーの試食と米粉製品の展示、日の本穀粉株式会社では、米粉を使用した温かい2種類のルー（カレー、シチュー）の試食と米粉製品の展示を行いました。

両事業者のブースとも、バイヤーをはじめとする食品関係者の関心を集め、新たな米粉の活用方法についてなど、担当者に質問をする姿が見受けられました。

本展示・商談会での取組により、米粉の副食等の食材としての利用も進むことが期待されます。

なお、当日の様子は、2月9日の下野新聞にも掲載されました。



パネル展示の様子(左)とレシピ集(上)

< 2 > 米粉イベント&募集のお知らせ

◇米粉パンの予約販売を行っています（埼玉県）

埼玉県米粉利用食品推進連絡会では、米粉利用拡大の一環として毎月1回「米粉パン」の販売を行っています。

現在は、国産米粉と北海道産小麦で作った「米粉ベーグル」の販売を行っており、リピーターになる方も多く、好評を得ています。

なお、購入に当たっては、事前予約が必要になりますので、購入希望等ございましたら、関東米粉食品普及推進協議会事務局（電話：048-740-0403）までお問い合わせ下さい。

●今後の販売予定日

・平成29年3月28日（火）

●製造者：WA ベーグル（有限会社 食生活）
住所：さいたま市南区神明 1-10-15 メゾン・ド・コリン 1F
TEL：048-844-6313 FAX：048-740-7866
E-mail：wabage11@gmail.com

< 3 > 各都県事務局からのお知らせ

◇米粉に関する情報をお寄せください（関東）

関東米粉食品普及推進協議会では、会員の皆様はじめ米粉に関心のある方から広く情報を寄せていただき、メールマガジンやホームページなどで、広く発信していきます。

イベントへの出展、米粉製品取扱店舗や米粉商品等の情報がございましたら、ホームページに添付されている「米粉に関する連絡票」をご利用いただき、事務局宛てにメールやFAX等でお知らせください。

●連絡票のダウンロードは、こちらのページから。（エクセルファイル）
<http://www.maff.go.jp/kanto/syokuryou/komekojouhou/komekoibento.html>

◇米粉料理教室の講師募集！！（埼玉県）

最近の米粉への関心の高さから、米粉料理教室が各地で開催され、埼玉県米粉利用食品推進連絡会にも講師派遣依頼についてお問い合わせをいただいております。

家庭での米粉の利用拡大につなげることを目的に、当連絡会においても講師をお引き受けていただける会員の皆様に登録をお願いしております。

つきましては、以下のとおり講師の募集をしておりますので、ご応募をお待ちしております。

●募集の案内はこちらからご覧いただけます（PDF 形式ファイル）。
http://www.maff.go.jp/kanto/syokuryou/syouhi/sin-komeko/kyougikai/saitama/pdf/koushi_panfu.pdf

< 4 > その他のお知らせ

◇「農業競争力強化プログラム」について（関東農政局）

国では、自由に農業経営ができる環境をつくり、農業の構造的な問題を解決し、農業者の皆さんの所得向上を図るため、全 13 項目の「農業競争力強化プログラム」を決定しました。

【13 項目の内容】

1. 生産資材価格の引き下げ（肥料、農薬、機械、飼料など）
2. 流通・加工の構造改革（卸売市場関係業者、米卸売業者、量販店など）
3. 人材力の強化
4. 戦略的輸出体制の整備
5. 原料原産地表示の導入
6. チェックオフ（生産者から拠出金を徴収、販売促進等に活用）の導入
7. 収入保険制度の導入

8. 土地改良制度の見直し
9. 農村の就業構造の改善
10. 飼料用米の推進
11. 肉用牛・酪農の生産基盤強化
12. 配合飼料価格安定制度の安定運営
13. 生乳の改革

●プログラムの詳細については、こちらのアドレスから、各項目毎に説明動画がご覧になれます。

http://www.maff.go.jp/j/kanbo/nougyo_kyousou_ryoku/index.html

◇平成 29 年度予算が概算決定されました（関東農政局）

平成 29 年度予算が概算決定され、1 月 20 日に招集された通常国会で審議されています。米粉関連予算については次のとおりです。

- (1) 米粉の用途別基準やグルテンを含まない米粉製品の表示ルールの全国的な普及に向けた取組を支援します。

米粉の用途別基準やグルテンを含まない米粉製品の表示ルールについては、28 年度中にガイドラインが公表され、普及に向けた取組が始まります。

農林水産省では、産地活性化総合対策事業のうち革新的低コスト生産技術の波及展開支援を拡充し、取組を支援します。



※本事業は、公募が開始されています。詳しくは、ホームページをご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/supply/hozyo/seisaku_tokatu/170216_1.html

(2) 米粉用米への支援が継続されます。

米粉用米への支援は、水田活用の直接支払交付金の戦略作物助成により、数量に応じて55,000～105,000円/10aが交付されるとともに、多収品種への取組を行った場合は、産地交付金により12,000円/10aが加算されることとされています。

平成29年度予算についても、水田活用の直接支払交付金として3,150億円（前年に比べ72億円増）が、概算決定されました。

※6次化や地産地消で米粉に取り組みたいと考えている方、米粉メーカー等との取引に主食用のお米を使っている方などいましたら、関東農政局（都県支局）へお問い合わせ下さい。

◇米政策説明動画が公開されました（関東農政局）

30年産からの米政策見直しへの円滑な移行に向けて、多くの生産者及び関係者の方々に理解を深めていただくために、農林水産省の柄澤政策統括官が説明する動画を製作し、ホームページに公開いたしました。

●農林水産省ホームページ

http://www.maff.go.jp/j/syouan/keikaku/soukatu/kome_seisaku_kaikaku.html

◇「関東農政局メールマガジン」について

農林水産省関東農政局では、行政情報・地域の食と農のイベント情報などをタイムリーにお知らせするため、メールマガジンを発行しています。（隔週発行。無料）

購読を希望される方は、以下のリンクから登録をお願いいたします。

●関東農政局ホームページ

<http://www.maff.go.jp/kanto/houdou/kouhou/merumaga/index.html>

◇「食べて応援しよう！」の取組について

農林水産省関東農政局では、東日本大震災の被災地で生産された食品を積極的に消費することにより、産地の活力再生を通じて被災地の復興を応援するため「食べて応援しよう！」を共通のキャッチフレーズに、さまざまな取組の呼びかけを行っております。

ご賛同いただける方のご参加をお待ちしております。

●「食べて応援しよう！」へのリンク（関東農政局HP）

http://www.maff.go.jp/kanto/ouen/pdf/tabete_ouen1.pdf

【編集後記】

先日、アメリカ航空宇宙局（NASA）から、「地球から39光年離れたところに、地球によく似た太陽系外惑星7つを発見した。」との発表がありました。7つのうち6個は、質量も地球によく似ており、さらに3つには、水が液体で存在する可能性があるとのことで、生命の存在についても、期待が持てるとのことですが、光のスピードで39年も掛かる距離なので、詳しい解析が行われるまでには、時間が必要とのことです。

東西冷戦時代、あらゆる分野で覇権を争っていた、アメリカとソ連（当時）ですが、宇宙開発においては、ソ連が、1957年に人工衛星「スプートニク1号」の地球周回軌道への送り込みを成功させ、1961年に、「地球は青かった。」で有名なユーリイ・ガガーリンを、ボストーク1号で地球を周回させる一方、アメリカは、ガガーリンの成功後に十数分間、人を宇宙へ送り込むことに成功したのみで、この分野においては、大きくソ連に水をあけられていました。

1961年に第35代アメリカ合衆国大統領に就任した、ジョン・F・ケネディは、「今後10年以内に、人類を月に着陸させる。」と議会で演説し、NASAが立案した「アポロ計画」の推進を宣言しました。1963年にケネディ大統領は凶弾に倒れましたが、その後も計画は、アメリカの技術力を結集し進められて、数々の失敗や困難を乗り越えた結果、1969年7月、アポロ11号で2人の宇宙飛行士が月面に降り立ち、公約は達成されました。

米粉については、平成27年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」の中で、10年後の平成37年度に、生産量を10万トンとする目標が掲げられ、これまでの間、協議会会員や関係者の努力により、利用は広がりを見せています。

また、「米ゲル」の実用化に向けた取組も活発に進められるなど、目標に向けて着実に歩みを進めていますが、10万トンという数字を達成することは、決して容易なことではないと思います。

平成37年度まであと8年、目標の達成に向けて、取組を強化する必要があると思いますので、今後も、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

●米粉食品に関する情報は・・・

<http://www.maff.go.jp/kanto/syokuryou/komekojouhou/>

●関東米粉食品普及推進協議会員を募集！「各都県協議会事務局まで」

<http://www.maff.go.jp/kanto/syokuryou/syouhi/sin-komeko/kyougikai/>

●FOOD ACTION NIPPON「米粉倶楽部」公式サイト

<http://www.syokuryo.jp/komeko/>

●皆様のご意見・ご質問、ご要望をお待ちしています！

関東米粉食品普及推進協議会事務局（関東農政局 生産部生産振興課内）

TEL：048-740-0406（直通）

FAX：048-601-0533

*メルマガバックナンバー ⇒ <http://www.maff.go.jp/kanto/syokuryou/syouhi/sin-komeko/merumaga/>